令和元年度(平成31年度)

社会福祉法人 阿闍羅会

障害福祉サービス事業所

# ワークショップ大鰐

【就労継続支援B型】

# 事業報告書

令和2年6月10日 作成

住 所:青森県南津軽郡大鰐町大字虹貝字篠塚33-11

電 話:0172-48-3662

FAX: 0172-48-3028

# 〈目次〉

1		法人	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•		1
(	1)	理	事会	•	評詞	義」	員:	会 4	等		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		1	
(	2)	役員	員及	び	評詞	義」	<b>員</b> (	かj	艮	壬	ا ح	選	任		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		1	
(	3)	共同	司生	活	援	助₽	事	業	グ	ル	_	プ	ホ	_	ム	事	業	統	廃	合		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		1	
2		施設	経	営		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•		2
(	1)	職員	員行	動	目材	票	2	期~	ナ.	る	報	告		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		2	
(	2)	職員	員の	入	退	戠		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		3	
(	3)	しし	へた	け	調	整力	加.	工化	乍	業	折	の	建	設		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		3	
(	4)	自己	己評	価		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		4	
3		支援	内	容		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•										•					•	•	•		9
		生剂				•	•	•	•	•	•	•	•	•	•										•					•			_	
	2)			援		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•													•	1	O	
	ア	総打		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•								
	1		へた			業		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•						
	ウ、		祁事			•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•									•									
	3)	-				凷(	2							•	•																•	_	_	
		保例				•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•							•					•	•			
(	5)	余明	段店	虭	文1	叐		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1	3	
4		給食	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	1	7
5		防災	計i	画	(j	胜	難	確	侟	信	ΗĪ	画	)		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	1	8
6		広報	<u> </u>	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	1	9
7		会議	ì	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	2	C
8		人材	育	成	計i	画	(	研	修	計	ϯį	画	)		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	2	3
9		苦情	解	决		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	2	6
1	0	地	域:	生	活:	支	援		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	2	7
1	1	共	同	受	注	窓	口		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	2	8
1	2	虐	待	妨.	止	委	員	会	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	3	1
1	3	安	全.	<u></u>	視		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	3	2
1	4	地	域	交	流		•	•	•	•	,	•	•	•	•	,	•	•	•	•	•	•	•	•	•			•	•	•	•	•	3	2

# 1 法人(田中大生)

# (1) 理事会・評議員会等

実施年月日	事業	場所	参加者
令和 元年 5月15日(火)	監査会	ワークキャンパス大鰐 ワークショップ大鰐	監事2名
5月24日(金)	第1回 理事会	ワークキャンパス大鰐	理事4名、監事2名
5月29日(水)	評議員選任・解任委 員会	ワークショップ大鰐	委員3名
6月12日(水)	第1回 評議員会	ワークキャンパス大鰐	評議員7名
6月19日(水)	第2回 理事会	ワークキャンパス大鰐	理事5名、監事2名
9月25日(水)	第3回 理事会	ワークキャンパス大鰐	理事6名、監事2名
9月27日(金)	第2回 評議員会	ワークキャンパス大鰐	評議員5名
11月19日(火)	第4回 理事会	ワークキャンパス大鰐	理事7名、監事2名
11月29日(金)	第3回 評議員会	ワークキャンパス大鰐	評議員7名、監事1名
令和 2年 3月10日(火)	第5回 理事会	ワークキャンパス大鰐	理事5名 監事2名
3月26日 (火)	第4回 評議員会	ワークキャンパス大鰐	評議員7名、監事2名

# (2) 役員及び評議員の退任と選任

平成31年 3月 9日 評議員 外崎俊一 死去による退任 令和 元年 5月29日 評議員 山口守一 選任

※ なお、山口守一氏の選任に伴い、評議員選任・解任委員が空席となったため、後任にワーク キャンパス大鰐保護者会「椎の実会」会長の浅利金利氏を選任した。

# (3) 共同生活援助事業グループホーム事業統廃合

# ア目的

4つの事業に分割されている共同生活援助事業をまとめ、一体的管理による効率化とそれによる事業活動資金収支差額の増に繋がることから、各居宅において生活する利用者の処遇向上と、今後の利用希望者に新たな居宅提供するための準備資金の貯蓄を目的とする。

# イ 廃止および変更の内容

# (ア)廃止

事業所名 (定員)	廃止日
グループホームあやめ(定員7人)	令和 元年11月30日
グループホームすみれ荘(定員6人)	令和 元年11月30日

#### (イ)変更

- ① 変更年月日 令和 元年12月 1日
- ② 事業の種類 名称(総定員) 共同生活援助事業所 グループホームさくら(総定員18人)
- ③ 共同生活住居数 3棟

住居名称	定 員
グループホームさくら	6人
グループホームあやめ	7人
グループホームすみれ	5人

# 2 施設経営

(1)職員行動目標に関する報告(白石安英)

# ア 「利用者の支援」

- (ア)フェイスシート(利用者基本台帳)については、保護者が記入したものをベースに整備を進めたが、過年度の整備は特にケース担当が変わった場合に難しい面があった。利用者支援の基礎になるものとして正確性を期すため、未記入箇所の追記を行い整備する必要がある。(各ケース担当者)
- (イ)アセスメントシートについては、内容(項目)の見直しと生活領域と就労領域を分けて 設定した。実際に評価しながら修正点等の確認を進めるとともに、支援と個別支援計画 の基礎として活用できるように努めた。情報共有とともに日々の支援の質の向上を図る ため活用できている。(各ケース担当者)
- (ウ)ケースファイルの管理を徹底し年次毎の未整備部分を解消できるように努めたが、まだ 不十分である。今後は、チェックリスト等の活用により資料環境の整備・維持に更に努 める必要がある。(サービス管理責任者)

# イ 「仕事面の支援」

- (ア) しいたけ栽培の法人一本化のため、ワークショップ大鰐の職員のスキルアップにより、利用者の作業内容習得と作業工程習熟に向けた支援の充実に努めた。キャンパスまでの利用者の移動やショップ職員のスキルアップなど課題解決の工夫や更なる充実に努める必要がある。また、利用者の中からのリーダー育成については、作業の習熟という点ではまだ不十分で時間が必要である。利用者の適材適所による仕事の充実感と工賃アップに向けた生産性の向上については、継続して取り組む必要がある。(全職員)
- (イ)利用者にとってより働きがいのある就労を目指すため、工賃支給規程改定し利用者給与表を新たに作成し実際に運用した。利用者にとっては、評価が工賃アップに表れると同時に次の目標が見える点は大変よい。職員も慣れることによってスムーズな運用が可能になるものと考える。三者面談の際に本人・保護者に説明し理解を求める方法としても有効であり個別支援計画との一本化により支援の根拠として機能できるように努める

必要がある。(生活支援員・職業指導員)

#### ウ 「地域生活の支援」

- (ア) グループホームでの生活の質の向上のため、世話人の専門知識の向上は継続的課題では あるが、グループホーム関係者会議のミニ研修への定期的参加と法人内研修への自主的 参加により資質向上に繋げることができた。 (課長)
- (イ)世話人とケース担当者の日常的な連携については、業務日誌による情報共有と緊急時には担当者の直接訪問により連携強化を図った。また、サービス管理責任者やバックアップ施設の担当課長が定期的に各ホームを訪問することにより、世話人との連携強化と必要に応じた支援・助言を行うことができた。 (課長)
- (ウ) グループホームと各施設との連携推進のため、各ケースに関する情報(支援計画や都度の支援方針・服薬管理など)の共有を図ってきた。会議・研修等に参加できない場合の資料提供等はこれまでどおり実施してきたが、11月の指導監査で指摘を受けた、会議・研修欠席者への具体的なフォローの方法を検討し準備しておく必要がある。(ケース担当、サービス管理責任者)
- (エ) 各施設・グループホームは地域との連携を図るため、学校の実習・体験等の受け入れや 関係機関の見学・研修への対応、公開研修会の実施等の取り組みを積極的に進めること ができた。 (課長)

#### エ 「職場の環境」

- (ア)「ほうれんそう(報告・連絡・相談)」を積極的に行い、風通しよい職場環境構築のため、職員全体で相互に協力することができた。不十分な部分も見受けられるので、更に職場環境を充実させるため、職務上の課題を共有し方向性を明確にして取り組みを継続する必要がある。(全職員)
- (イ)ストレスチェックを継続して実施することにより、その結果から職員個々の状況を確認 するとともに職場自体の抱える問題も早期に発見・対応できるように努めた。(施設長)

#### (2)職員の入退職(田中大生)

ア ワークキャンパス大鰐

令和 2年 3月31日 職業指導員 神 則男 退職 (希望退職) 令和 元年 7月 1日 職業指導員 後藤 幸雄 入職 (非常勤)

#### イ ワークショップ大鰐

令和 2年 1月21日 調 理 員 渡邊亜希子 入職(非常勤) 令和 2年 3月31日 調 理 員 " 退職(非常勤) ※ 「グループホームすみれ」の世話人として引き続き勤務している。

#### (3) しいたけ調整加工作業所の建設(佐藤直幸)

しいたけハウス増築に伴い、収穫量の増加が見込まれる。そこで、作業の効率化を図るため新しい調整加工作業所が必要となり計画した。資金面として農林水産省主催の「農山漁村振興交付金」へ応募し結果採択となり実施した。内容は下記のとおりである。

令和元年 6月14日 東北農政局より交付金採択通知

10月29日 施工業者入札 落札業者「(株) 西村組」

10月31日 請負契約、工事開始

令和2年 1月31日 しいたけ調整加工作業所完成、施主検査、引き渡し

【総事業費】 建設費 20,680,000円

設計費 544,500 円

合 計 21,224,500 円

( 内 10,000,000 円 農山漁村振興交付金)

現在、しいたけの選別場所および乾燥しいたけの作製場所として稼働中である。

今後、しいたけ調整加工作業所を利用して作業効率をより良いものにし、しいたけの質の 向上等を推進していきたい。

## (4) 自己評価(田中大生)

ア評価結果

(ア)分析方法 着眼点数の 7割以上 「a」

7割未満4割以上 「b」

4割未満 「c」

# (イ) 評価結果

【共通評価基準】							
_							
I 福	独サービ	えの基本方針と組織					
I – 1	理念・□	基本方針					
I - 1 - ( 1	)理念、	基本方針が確立・周知されている。	自己 評価結果				
1	1	理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	а				
I - 2	経営状	└────────────────────────────────────					
I-2-(1	) 経営環	<b>遺境の変化等に適切に対応している。</b>	自己 評価結果				
2	1	事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	а				
3	2	経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	а				
I - 3	事業計	■の策定					
I-3-(1	)中・長	期的なビジョンと計画が明確にされている。	自己 評価結果				
4	1	中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	а				
5	2	中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a				
I-3-(2	)事業計	ー画が適切に策定されている。	自己 評価結果				
6	1	事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員 が理解している。	а				
7	2	事業計画は、利用者等に周知され、理解を促している。	а				
I - 4	福祉サ	── ービスの質の向上への組織的・計画的な取組					
I-4-(1	I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。 自己						
8	1	福祉サービスの質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	а				
9	2	評価結果にもとづき組織として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善 策を実施している。	а				

Ⅱ 組制	職の運営	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				
II - 1	管理者	の責任とリーダーシップ				
<b>I</b> − 1 − ( 1	)管理者	fの責任が明確にされている。	自己 評価結果			
10	1	管理者は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	а			
11	2	遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	а			
II-1-(2	)管理者	かリーダーシップが発揮されている。	自己 評価結果			
12	1	福祉サービスの質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a			
13	2	経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	а			
II - 2	ᇩᆉ	│ 材の確保・育成				
II-2-(1		材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	自己			
14	1	必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実 施されている。	評価結果			
15	2	総合的な人事管理が行われている。	a			
II-2-(2	) 職員の	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	自己 評価結果			
16	1	職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取組んでいる。	b			
II-2-(3	) 職員の	)質の向上に向けた体制が確立されている。	自己 評価結果			
17	1	職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	а			
18	2	職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施 されている。	а			
19	3	職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	а			
II-2-(4	)実習生	等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。	自己評価結果			
20	1	実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成について体制を整備 し、積極的な取組をしている。	С			
II - 3	運営の	□ 透明性の確保				
II-3-(1		ー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	自己評価結果			
21	1	運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	C			
22	2	公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	а			
II – 4	tah teb L	のなぶ、地域電影				
II-4-(1	· ·	<b>の交流、地域貢献</b> :の関係が適切に確保されている。	自己			
23	(1)	利用者と地域との交流を広げるための取組を行っている。	評価結果			
20		ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立してい	a			
24	2	が プラブイブ 等の 交入 れに対する 基本 安労 を明確に し体制 を確立している。	а			
II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。						
25	1	福祉施設・事業所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	а			
II-4-(3	)地域の	・ )福祉向上のための取組を行っている。	自己 評価結果			
26	1	福祉施設・事業所が有する機能を地域に還元している。	а			
27	2	地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b			

Ⅲ 適	切な福祉	上サービスの実施	
ш – 1	利用者	本位の福祉サービス	
Ⅲ-1-(1	) 利用者	・ がを尊重する姿勢が明示されている。	自己評価結果
28	1	利用者を尊重した福祉サービス提供について共通の理解をもつための取組 を行っている。	а
29	2	利用者のプライバシー保護等の権利擁護に配慮した福祉サービス提供が行われている。	a
Ⅲ-1-(2	)福祉サ	ナービスの提供に関する説明と同意(自己決定)が適切に行われている。	自己評価結果
30	1	利用希望者に対して福祉サービス選択に必要な情報を積極的に提供している。	b
31	2	福祉サービスの開始・変更にあたり利用者等にわかりやすく説明している。	b
32	3	福祉施設・事業所の変更や家庭への移行等にあたり福祉サービスの継続性 に配慮した対応を行っている。	b
<b>Ⅲ</b> -1-(3	)利用者	f満足の向上に努めている。	自己評価結果
33	1	利用者満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b
Ⅲ-1-(4	)利用者	・ が意見等を述べやすい体制が確保されている。	自己評価結果
34	1	苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	С
35	2	利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、利用者等に周知している。	а
36	3	利用者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
Ⅲ-1-(5	) 安心・	安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。	自己評価結果
37	1	安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が 構築されている。	а
38	2	感染症の予防や発生時における利用者の安全確保のための体制を整備し、 取組を行っている。	b
39	3	災害時における利用者の安全確保のための取組を組織的に行っている。	С
II - 2	福祉サ	 ービスの質の確保	
<b>Ⅲ-2-(1</b>	)提供す		自己評価結果
40	1	提供する福祉サービスについて標準的な実施方法が文書化され福祉サービスが提供されている。	а
41	2	標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	а
III-2-(2	)適切な	『アセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。	自己評価結果
42	1	アセスメントにもとづく個別支援計画を適切に策定している。	a
43	2	定期的に個別支援計画の評価・見直しを行っている。	а
<b>Ⅲ-2-(3</b>	)福祉サ	- トービス実施の記録が適切に行われている。	自己評価結果
44	1	利用者に関する福祉サービス実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共 有化さている。	a
45	2	利用者に関する記録の管理体制が確立している。	b

		【内容評価基準】	
A - 1	利用者	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	
A-1- (		決定の尊重	自己評価結果
A ①	1	  利用者の自己決定を尊重した個別支援と取組を行っている。	а
A-1- (	2) 権利	」  侵害の防止等	自己評価結果
A 2	1	利用者の権利侵害の防止等に関する取組が徹底されている。	a
A-2	生活支	<del></del>	
A-2- (		その基本	自己評価結果
A 3	1	利用者の自律・自立生活のための支援を行っている。	а
A 4	2	利用者の心身の状況に応じたコミュニケーション手段の確保と必要な支援 を行っている。	a
A (5)	3	利用者の意思を尊重する支援としての相談等を適切に行っている。	а
A 6	4	個別支援計画にもとづく日中活動と利用支援等を行っている。	а
A 7	(5)	利用者の障害の状況に応じた適切な支援を行っている。	а
A-2- (	2) 日常	・ 常的な生活支援	自己評価結果
A ®	1	個別支援計画にもとづく日常的な生活支援を行っている。	а
A-2- (	3) 生活		自己評価結果
A (9)	1	利用者の快適性と安心・安全に配慮した生活環境が確保されている。	а
A-2- (	4) 機能	記訓練・生活訓練	自己評価結果
A 10	1	利用者の心身の状況に応じた機能訓練・生活訓練を行っている。	a
A-2- (	5) 健康	夏管理・医療的な支援	自己 評価結果
A (1)	1	利用者の健康状態の把握と体調変化時の迅速な対応等を適切に行っている。	а
A 12	2	医療的な支援が適切な手順と安全管理体制のもとに提供されている。	С
A-2- (	6) 社会	参加、学習支援	自己 評価結果
A (13)	1	利用者の希望と意向を尊重した社会参加や学習のための支援を行っている。	а
A-2- (	7) 地域	は生活への移行と地域生活の支援	自己 評価結果
A 14	1	利用者の希望と意向を尊重した地域生活への移行や地域生活のための支援 を行っている。	a
A-2- (	8) 家族	等との連携・交流と家族支援	自己 評価結果
A 15	1	利用者の家族等との連携・交流と家族支援を行っている。	a
A-3	発達支	□	
<del>V-3-</del> (	1) 発達	<del>支援</del>	自己 評価結果
<del>A 16</del>	1	子どもの障害の状況や発達過程等に応じた発達支援を行っている。	<del>C</del>
A - 4	就労支	□	
A-4- (		<del></del>	自己評価結果
A ①	1	利用者の働く力や可能性を尊重した就労支援を行っている。	a
A (18)	2	利用者に応じて適切な仕事内容等となるような取組と配慮を行っている。	а
A (19)	3	職場開拓と就職活動の支援、定着支援等の取組や工夫を行っている。	a

## イ 分析

#### (ア) 共通評価基準

#### I 福祉サービスの基本方針と組織

「理念・基本方針」は、明文化され職員に周知されているが、わかりやすく説明された 資料の作成と利用者や保護者への周知が図られていなかったため、平成31年度事業計画 書において計画した。(番号1評価結果 $b \rightarrow a$ )

※ 事業計画6広報(3)福祉サービス広報、14地域交流等(3)情報の収集と公開 参照

これにより、項目 I 福祉サービスの基本方針と組織 全項目「a」評価となる。

#### Ⅱ 組織の運営管理

「管理者の責任とリーダーシップ」の評価は良好だが、「人材確保や育成」については、いまだ脆弱な点が多い。平成 2 9 年度末に青森県保育・障害福祉サービス事業所等認証評価制度に参加宣言し、社会保険労務士からの助言を受けて取り組みを進めた。「総合的な人事管理」および「職員一人ひとりの育成に向けた取り組み」の項目が大幅に改善された。(番号 1 5 評価結果  $c \rightarrow a$ )、番号 1 7 評価結果  $c \rightarrow a$ )

「地域との交流、地域貢献」は、平成31年度事業計画書へ新規に追加された「14地域交流等」の項目により、地域との関わり方やボランティア受け入れについて文書化・明文化された。(番号23評価結果 $b\to a$ 、番号24評価結果 $c\to a$ )

次年度への課題は、必要な福祉人材確保・定着等に関する具体的な計画の確立と取り組みをすることである。先ずは職員の希望聴取をもとにした総合的な福利厚生に取り組みたい。また、運営の透明性の確保の取り組みとして法人理念・存在意義・活動等を、地域へ明示・説明・配布していきたい。取りかかるのには時間が必要な項目もあることから、できる項目をひとつずつ取り組みたい。

### Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

利用者を尊重した福祉サービスの提供や、権利擁護に配慮した福祉サービスの提供については、よく実施されている。しかし、まだ取り組まれていない部分がいくつかあり、これもひとつずつできる項目から取り組みたい。前年度の課題としてあげられた、サービスの質の確保に伴う記録方法とその管理、情報伝達方法の整理を見直すために、マニュアル等の作成と周知がされ改善した。(番号 4 4 評価結果  $b \rightarrow a$ )

具体的な次年度への課題として、「わかりやすい版事業計画書」を作成し利用者・保護者への配布、利用者満足に関する定期調査と分析、災害時の対応体制や食糧等の備蓄などの取り組みがあげられる。

#### (イ) 内容評価基準

利用者の尊重と権利擁護、生活面の支援、就労面での支援は十分に実施されており、今後も継続していきたい。発達支援については当法人において児の支援を行っていない(対象外)ため、評価しない。また、医療的な支援の項目については、常に医師の指示を必要とする医療的ケアの対象者がいないなめ、これも評価しない。

#### (番号A⑩評価結果 b → a)

今年度実施の内容評価基準については、対象者なしのために評価しない項目を除くと、

全項目「a」評価となる。

- (ウ) 令和2年度の事業計画書 計画内容
  - 評価結果と分析から、下記のとおり計画した。
  - ① 阿闍羅会における福祉人材の確保と育成に関する方針を作成
  - ② 総合的な福利厚生の実施を目的とした、職員の希望聴取
  - ③ 法人理念・福祉サービスの内容・存在意義・事業活動等を地域へ明示・説明
  - ④ 理念・基本方針が、わかりやすく説明された内容を含んだ、「わかりやすい版事業計画書」の作成と、利用者・保護者への配布
  - ⑤ 利用者満足に関する定期調査と分析
  - ⑥ 避難確保計画を策定し、それに伴う災害時の対応体制の構築や食糧等の備蓄
- (エ) 取り組み担当者
  - 佐藤直幸
- ② 三上拓雄
- ③ 田中大生

- ④ 笹田和夫
- ⑤ 植田善久
- ⑥ 白石安英

# 3 支援内容

(1) 生活支援(山内彩子)

#### ア総括

日常生活に必要な、基本的生活習慣の自立を目的とした。

自立性を養い、毎日の積み重ねによって望ましい習慣の形成や、社会生活の態度・性格の社 会的適応性を育成し、地域生活への移行を念頭においた支援をした。

また、グループホーム利用者においては保護者や世話人などと情報共有しながら自立した生活を送れるよう支援した。

# イ 支援内容

(ア) 基本的習慣の定着

あいさつ、排泄、生理の手当て、衣類の着脱・調整・たたみ方、歯磨き、手洗い、食事と その後始末、整理整頓、掃除、洗濯支援をした。

(イ) コミュニケーションの支援

言語の表出が難しい利用者に対しては、できるだけ普通の言葉で話しかけ、行動を気に掛けるよう配慮した。

パニックに対する本人への支援としては、本人が伝えたいことがあるなどに職員が気づく ことや、視覚支援を用いたりした。

(ウ) 行動に支障がある利用者に対する支援

精神障害に関する理解とそれに関する支援として、利用者が納得できるまで話しを聞き、 できるだけ本人の気持ちに寄り添えるよう配慮した。

身体障害に関する理解とそれに関する支援として、筆談を用い、作業説明をするときは、 個別に話す、顔をみて話すなどの配慮をした。

また、車輌の乗り降りなど介助が必要な際など安全面に配慮した。

発達障害に関する支援として、それぞれの特性に応じた環境作り(特性に応じた作業に取り組ませる)やスケジュールの変更などは、事前に知らせるなど配慮した。

# (エ) 日常生活を送るために安全な環境作りの支援

作業場を整理整頓し足場等に危険がなく、利用者が作業しやすいように配慮した。 行事活動及び休憩時間等に怪我をしないように注意した。

奇数月に職員が両施設やグループホームの安全巡視を行い危険と思われる箇所の改善を 行った。

ヒヤリ・ハットの報告を徹底し再発防止に努めるように話し合いを行った。

#### (オ) その他の支援

コロナウィルス対策として、手洗い・うがいの徹底を指導し、正しいマスクの付け方と自 宅での布マスクの洗い方を指導した。

## (2) 作業支援(中嶋綾子)

#### ア総括

しいたけ作業を主軸に職員、利用者共に入荷、ハウス管理、調整等シーズンを通して取り組んできた。その他受託作業としてリサイクル、縫製、新規で水道メーター分解、フルーツキャップ東ね作業も加わり隙間時間を利用していろいろな作業に取り組むことができた。さまざまな作業に携わることで1人1人の能力、適性の見極めや利用者の作業に対しての意欲向上、達成感が図れたと思う。

令和2年度も利用者の能力を今以上に引き出せる支援を引き続きおこなっていきたい。 令和元年度目標工賃8,000円に対し8,561円であった。

#### イ しいたけ事業(山内彩子)

- (ア)年間収入 2.730.000円
- (イ) 令和元年度の状況

平成29年度からしいたけ事業に参加し3年目。今年度はハウス1棟をワークショップ 大鰐で管理することとなった。同じハウスで繰り返し作業することで多くの利用者が作業 に携わり、できる作業が多くなった。

令和2年2月にしいたけ調整加工作業所が新築され、職員が調整作業に入る機会が増えたことで、しいたけの流通全体を把握することができた。

#### (ウ) 次年度への課題

職員は、菌床入荷から廃棄までのスケジュールを計画できるよう、習熟する必要がある。 計量・袋詰めなどの調整作業、及び、干ししいたけのシーラーのできる利用者を育成する。

#### ウ 内部事業(幸山稚子)

- (ア) 年間合計収入 1,660,711 円 (税込)
- (イ) 受託部門
  - ① アール (縫製作業) 145,941円

繁忙期に職員の手が回らず、作業工程が高度化になり利用者の技術と効率を上げる努力をしたが、納期時間が短く作業自体がうまく回すことができなくなったため12月で撤退とした。

② 東北クリーン (リサイクル) 1,095,914円

ほとんどの利用者が作業に慣れ効率も良く職員の手助けがなくても作業を行うことができている。

利用者間のトラブルもパーテーションを作っての作業で回避された。

③ 東管工業(水道メーターの分解)

8.500 円

冬場や作業が薄くなった場合を考慮し合間作業として納期がないという利点から、1 0月から開始した作業だが、数年前にも同じような分解作業の経験があるため利用者が 戸惑うことがなく作業を行うことができている。

回数をこなすことにより作業効率も上がってきているため、搬入量を増やすことができた。

④ DMノバフォーム (フルーツキャップ 東ね) 47,520 円

作業が薄くなった場合の合間作業として、納期がないという利点から10月から開始 した作業だがわずかな人数の利用者から折り・返しの工程に分けて利用者を育成したが、 現在は治具を使うことにより折り・返しの作業を一つの流れとして効率よく行うことが できている。

利用者の得意分野(折り返し・束ね・チェック)に合わせてほとんどの利用者ができるようになり納品までの時間が短くなっている。

#### (ウ) 自主部門

① タオル名入れ印刷 345,336円

安定した受注がカッパ温泉からある。

10月からの増税に伴い、資材の価格変動を懸念していたが価格の変動は見られなかった。

ここ数年のタオル印刷の単価の変動を行っていなかったが10月からタオル1枚の単価を約3円(タオルの種類により異なる)の値上げを行ったが受注には影響がなかった。

#### (エ) 次年度への課題

① リサイクル (東北クリーン)

リサイクルの回収量を増やし収入増につなげ老朽化したトラックの修繕費にする。 感染症予防のため衛生面に気をつける。

② 東管工業(水道メーターの分解)

分解作業はできているが、分別作業がほぼ職員作業になっているため、分別作業ができる利用者を育成する。

③ DMノバフォーム (フルーツキャップ東ね)

折り返しの作業は利用者でできているが、袋詰め作業が職員仕事になっているので、 治具の工夫をし、袋つめができる利用者を育成する。

④ タオル名入れ印刷

タオルたたみ、袋つめができる利用者を育成する。

タオル印刷の補助や印刷ができる利用者を育成する。

受注があったらすぐ発送できるように在庫を確保する。

# (3) 工賃向上計画に関する報告(山中司)

#### ア 目標工賃達成実績

				実	績		目標	令和1年度
			28 年度	29 年度	30 年度	01 年度	02 年度	対 28 年度
A 目標平均工賃(月額)	(円)	E÷F	7, 599	8, 103	8, 240	8, 561	8, 561	112.7%
B年間総収入	(千円)		5, 279	4, 211	5, 648	4, 390	4, 390	83.2%
C 年間総原価 (工賃除く)	(千円)		3, 482	1,988	1,677	987	987	28.3%
D工賃支払前収支	(千円)	В-С	1, 797	2, 233	3,971	3, 403	3, 403	189. 4%
E年間工賃総額	(千円)		2,611	3, 196	3, 447	3, 563	3, 563	136.5%
F年間延べ利用者数	(人)		343	394	418	420	420	122.4%

- ※ 工賃実績平均値計算式 総支給工賃÷総開所日数 (行事日を除く) × 2 0 日
- ※ 新規利用者利用開始から3ヶ月分と、不定期利用者は計算から除く。

#### イ 目標工賃達成状況

平成31年度(令和元年)は、8,000円に目標工賃を設定していたが、大きく上回り8,561円になっている。

平成31年度はしいたけ作業に力を入れるため、内部事業で行っていた縫製作業を終了しているが、リサイクルが早めに終わることで作業時間にすき間ができていたため、作業のすき間時間を埋める目的で DM ノバフォームのフルーツキャップ作業と東管工業の水道メーターの分解作業を取り入れている。

#### ウ 次年度への課題

#### (ア) しいたけ事業

職員は、菌床入荷から廃棄までのスケジュールを計画できるよう、習熟する必要がある。計量・袋詰めなどの調整作業及び、干ししいたけのシーラーができる利用者を育成する。

#### (イ) アール (縫製作業)

縫製作業の行程が難しくなり利用者だけでは作業が困難な状態が続き職員作業になる ことが多かったことに加え、納期までの時間が短かったため作業を継続することが無理と いう判断から撤退した。

(ウ) 東北クリーン (リサイクル)

回収トラックの老朽化が目立つようになり、更新の検討が必要である。 感染症(新型コロナウイルス等)予防を徹底する。

(エ) 東管工業(水道メーターの分解)

分解後の種分け作業ができる利用者を育成する。

(オ) DMノバフォーム (フルーツキャップ東ね)

きれいにそろえて東ねができる利用者を育成する。 袋つめができる利用者を育成する。

(カ) タオル名入れ印刷

タオル印刷の補助ができる利用者を育成する。

たたみと袋つめができる利用者が限られているため、たたみ袋つめができる利用者を育

成する。

#### (4)保健支援(山内彩子)

#### ア 保健指導年間実施表

定期健康診断	身体測定(血圧・体重)
令和1年6月3日から6月19日 令和1年11月8日	令和1年5月6日令和1年7月8日令和1年9月9日令和1年1月4日令和2年1月13日令和2年3月9日
計 2回	計 6回

#### イ 体力測定

10月23日(水) 午後の作業を早めに切り上げ14:30~実施。

- ウ 保健日誌からのまとめ
- (ア) 感染症予防のうがい・手洗いを徹底し声がけを実施した。(アルコール消毒液を設置)
- (イ) 12月よりインフルエンザ予防対策とし毎朝の検温を実施した。 インフルエンザ予防接種を12月3日(火)、希望利用者23名に対して小山内先生が ワークショップ大鰐に来所し実施した。今年度のインフルエンザ罹患者は2名だった。
- (ウ) 女子利用者に生理の手当やエチケットについての保健指導を実施した。
- (エ)毎日の利用者さんの表情や行動からその日の健康状態(特に精神状態)を把握し 作業中 の事故などを未然に防ぐ様に支援した。
- (オ)梅雨時、夏場の気温上昇時は水分補給や休憩を増やすなどの対策を行った。今後も注意深 く利用者さんの様子を観察しながら支援する。
- エ 利用者の健康状態
  - ※ 健康状態に留意した利用者 15名 (詳細は別冊)

#### (5) 余暇活動支援

#### ア 行事等(中嶋綾子)

月日 (曜日)	行事名	参加者数	実施場所
4月20日(土)	虹の会総会、三者面談	利用者 2 4 名 保護者 2 7 名	ワークショップ大鰐
5月11日(土)	DVD鑑賞	利用者18名	ワークショップ大鰐
5月18日 (土)	春の遠足	利用者20名	ロマトピア相馬
6月 8日 (土)	外食へ行こう	利用者24名	お好み焼き 道頓堀安原店

_	T		
6月29日(土)	買い物&調理学習	利用者20名	マックスバリュー 大鰐店
7月20日(土)	流しそうめんレク	利用者20名	ワークショップ大鰐
8月17日 (土)	カラオケ	利用者27名	カラオケ合衆国 城東店
8月25日(日)	県障害者スポーツ大会	利用者19名	青森総合運動公園
8月31日 (土)	室内レクリエーション	利用者17名	ワークショップ大鰐
9月 8日 (日)	ワークまつり	利用者50名	ワークキャンパス 大鰐
9月14日 (土)	親子バーベキュー	利用者17名	ワークショップ大鰐
9月28日 (土)	工作レクリエーション	利用者19名	ワークショップ大鰐
10月12日(土) ~10月13日(日)	宿泊訓練 (台風のため中止)	利用者20名	ロマントピア相馬
10月19日(土)	秋の三者面談	利用者26名	ワークショップ大鰐
11月 2日(土)	秋の遠足	利用者21名	マインランド尾去沢
11月16日(土)	調理学習 (お好み焼き作り)	利用者18名	ワークショップ大鰐
12月14日(土)	親子忘年会	利用者29名	バイキングモーモー
12月21日(土)	クリスマス会	利用者18名	ワークショップ大鰐
1月11日(土)	利用者新年会	利用者16名	ワークショップ大鰐
1月25日(土)	DVDレクリエーション	利用者17名	ワークショップ大鰐
2月 8日(土)	親子ボウリング	利用者 2 6 名 保護者 6 名	弘前ファミリーボー ル
2月15日(土)	紙芝居&トランプ大会	利用者20名	ワークショップ大鰐
3月 7日 (土)	簡単はくさい鍋	利用者17名	ワークショップ大鰐
3月14日(土)	DVD鑑賞	利用者17名	ワークショップ大鰐
合計実施	回数 24回	延べ参	加者 533名

# イ 利用者会活動

# (ア) 利用者全体会(幸山稚子)

利用者全体会前日に役員会を開き利用者全体会の議案の確認を行った。

偶数月の初日に15時から、利用者会を実施した。行事等の話し合いや、各委員会からの報告等をしてもらった。また、頑張った人の発表では、作業や生活面で頑張った人を発表し、利用者会から賞状を贈呈してみんなの前で今後の抱負などを発表してもらった。

実 施 日	主な内容
平成31年 4月 1日(月)	・利用者会総会 ・新会長、副会長の挨拶 ・その他(平成30年度の委員会の希望をとった。)
令和1年 6月 3日(月)	<ul><li>・行事について ・行事の感想 ・頑張った人(4・5月)</li><li>・各委員会から ・その他(県スポ出場希望)</li></ul>
8月 2日 (火)	<ul><li>・行事について ・行事の感想 ・頑張った人(6・7月)</li><li>・各委員会から ・その他(朝の会の歌について)</li></ul>
10月 1日 (火)	<ul><li>・行事について ・行事の感想 ・頑張った人(8・9月)</li><li>・各委員会から ・その他</li></ul>
12月 3日 (火)	<ul><li>・行事について ・行事の感想・頑張った人(10・11月)</li><li>・各委員会から ・その他</li></ul>
令和2年 2月 3日(月)	<ul><li>・行事について ・行事の感想 ・頑張った人(12・1月)</li><li>・各委員会から ・その他</li></ul>
3月26日(木)	「臨時利用者会」 ・令和2年度利用者会会長選出について

# (イ) 行事委員会 (鎌田健司)

令和元年度の計画にある「バーベキュー」「忘年会」「親子ボウリング」「レクリエーション」の行事について、下記のとおりに会議を実施、行事の内容・委員会の役割について会議を行った。行事委員会計画の行事については司会進行等の練習や各自の役割分担を決め積極的に行事遂行に携わった。

月	日	曜日	内 容	場所	備考
7	9	火	行事委員会	ワークショップ大鰐	利用者11名
7	2 1	火	行事委員会	ワークショップ大鰐	利用者10名
8	2 9	木	行事委員会	ワークショップ大鰐	利用者11名
9	1 0	火	行事委員会	ワークショップ大鰐	利用者11名
9	1 4	土	バーベキュー	ワークショップ大鰐 駐車場	保護者 4名 利用者17名
1 0	8	火	行事委員会	ワークショップ大鰐	利用者10名
1 1	2 6	火	行事委員会	ワークショップ大鰐	利用者10名
1 2	1 4	土	忘年会	焼肉モーモー	保護者11名 利用者29名
1 2	2 4	火	行事委員会	ワークショップ大鰐	利用者11名
1	1 6	木	行事委員会	ワークショップ大鰐	利用者11名
1	3 0	木	行事委員会	ワークショップ大鰐	利用者11名

2	4	火	行事委員会	ワークショップ大鰐	利用者11名
2	8	土	ボウリング大会	さくら野 ファミリーボール	保護者 6名 利用者26名
2	1 5	土	紙芝居 &トランプ大会	ワークショップ大鰐 食堂	利用者20名

# (ウ) お茶委員会(山中司)

利用者の毎日のお茶や作業用のお茶の準備、休憩時のテーブル拭きやおやつの準備など各担当を決めて行った。毎日の委員会の仕事をとおし、自主性・責任感を養った。

各担当の活動日は、毎日『朝・休憩・昼休み』とし、それぞれの担当が不在の時は、別の担当者が行った。また、毎月最終週の水曜日を会議日とし、翌月のおやつの計画を立てている。

月	日	曜日	内 容	場所	備考
4	2 4	木	お茶委員会	ワークショップ食堂	利用者 10名
5	2 9	水	お茶委員会	ワークショップ食堂	利用者 10名
6	2 6	水	お茶委員会	ワークショップ食堂	利用者 10名
7	3 1	水	お茶委員会	ワークショップ食堂	利用者 10名
8	2 8	水	お茶委員会	ワークショップ食堂	利用者 8名
9	2 6	木	お茶委員会	ワークショップ食堂	利用者 10名
1 0	3 0	水	お茶委員会	ワークショップ食堂	利用者 10名
1 1	2 7	水	お茶委員会	ワークショップ食堂	利用者 10名
1 2	2 5	水	お茶委員会	ワークショップ食堂	利用者 10名
1	2 9	水	お茶委員会	ワークショップ食堂	利用者 10名
2	2 7	水	お茶委員会	ワークショップ食堂	利用者 9名
3	2 5	水	お茶委員会	ワークショップ食堂	利用者 10名

# (工) 広報委員会(山内彩子)

毎日の作業配置、毎月の行事、レクの写真、掲示物の張り替えを行った。

偶数月に壁新聞を作成し張り出しした。

ポスター等を玄関やロビーに掲示した。

活動日(委員会会議)は、利用者全体会の翌日の12:30~12:50として行った。

月	日	曜日	内容	参加人数
4	2	火	各役割を決定	利用者 12名
6	4	火	行事予定、先月の行事写真、壁新聞の掲示	利用者 9名
8	3	水	行事予定、先月の行事写真、壁新聞の掲示	利用者 12名

1 0	2	水	行事予定、先月の行事写真、壁新聞の掲示	利用者 12名
1 2	4	水	行事予定、先月の行事写真、壁新聞の掲示	利用者 12名
2	4	火	行事予定、先月の行事写真、壁新聞の掲示	利用者 12名

# 4 給食(山口美香)

(1) 令和元年度 給食指導 対象者 男 3名 女 7名 計 10名

指導内容	具体的指導方法	対象者	
咀嚼・嚥下の補助	① 主菜・副菜~刻み食。	女2名、男2名	
糖尿病対策	① 食事療法。	女2名	
肥満対策	<ul><li>① 主食の量を少なくする。</li><li>② 主菜・副菜~刻み食。</li></ul>	女4名、男2名	
食事の補助	① フォークの使用。	女1名	

全体的に早食い傾向なので、全利用者に対して落ち着いてゆっくりよく噛んで食べ、口 の中の物を飲み込んでから、新たに口に運ぶように声がけをしている。

自分でできることはやってもらえるように声がけで見守るようにする。

# (2) 令和元年度 年間行事食実施表

月	行 事	献立名	実施日	備考
7	七夕	ミートボールのトマト煮、三色ゼリー	7月 5日	
9	十五夜	栗ごはん	9月11日	
1 0	いも煮会	米沢風いも煮	10月 3日	
1 2	冬 至	かぼちゃのいとこ煮	12月19日	
1 2	クリスマス	コーンライス、ハンバーグ パンプキンスープ、オレンジジュース	12月25日	
3	ひなまつり	ちらし寿司	3月 3日	

(3) 令和元年度 郷土食 年4回 実施

(4) 令和元年度 嗜好調査 計3回 実施

(5) 令和元年度 給食だより 計2回 発行

# (6) まとめ・反省

- ア 給食だよりが2回しか発行できず、最終号に行事食をまとめて掲載した。
- イ 令和2年度は、計画どおりに年4回発行できるようにする。
- ウ 野菜の残食は減ってきてはいるが、生野菜の残食が増えてきた。
- エ 青森県にこだわらず多彩な郷土食を提供していきたい。
- オ 年齢、体調を考慮して、主食の量、汁物の量(お茶、ジュース含む)を調整したい。
- カ 令和2年度も利用者に喜ばれ、楽しく給食を食べられるよう工夫したい。
- キ 令和2年度も調味料のかけ過ぎと、よく噛んで食べることを目標にしたい。
- ク 食事前の手洗いを習慣づけられるようにしたい。

# 5 防災計画 (避難確保計画) (鎌田健司)

#### (1) 実施状況

### ア ワークショップ大鰐

実施日	訓練種別	訓練時間	想定	震度・出火場所	避難場所	避難時間
5/28	部分	14:45~15:00	地震	震度4、40秒	駐車場	2分54秒
9/27	総合	10:20~10:40	火災	1階女子ロッカー	駐車場	4分34秒
3/17	部分	10:20~10:40	火災	2階 食堂	駐車場	3分45秒

- (ア) 利用者に対し、点呼時返事を大きくするように指導を行った。
- (イ)「おはしも」の徹底(押さない・走らない・しゃべらない・もどらない)をした。
- (ウ) 職員に対し、消火・誘導・放送の分担を明確にして責務を果たした。
- (エ)消火器を実際に使用して消火訓練を行った。

#### イ グループホームすみれ

	実施日	訓練種別	訓練時間	想定	震度・出火場所	避難場所	避難時間
Ī	5/17	部品	16:50~17:00	地震	震度4	駐車場	2分25秒
	9/2 7	部分	16:50~17:00	火災	1階 台所	駐車場	1分10秒

- (ア) 利用者に対し、点呼時返事を大きくするように指導を行った。
- (イ)「おはしも」の徹底(押さない・走らない・しゃべらない・もどらない)をした。
- (ウ) 職員に対し、普段一人勤務のため、第一優先は「人命」であることを再確認した。
- (エ)避難する際に行うべき機器の取り扱いについて、世話人に指導した。
- ウ グループホームこすもす

実施日	訓練種別	訓練時間	想定	震度・出火場所	避難場所	避難時間
5/17	部分	17:30~17:45	地震	震度4	駐車場	1分54秒
9/27	部分	17:30~17:45	火災	1階 居室	駐車場	1分51秒

- (ア) 利用者に対し、点呼時返事を大きくするように指導を行った。
- (イ)「おはしも」の徹底(押さない・走らない・しゃべらない・もどらない)をした。

- (ウ) 職員に対し、普段一人勤務のため、第一優先は「人命」であることを再確認した。
- (エ)避難する際に行うべき機器の取り扱いについて、世話人に指導した。
- (2) 次年度への課題・方向付け
  - ア 避難確保計画を完成させ法人全体へ周知し、自然災害への避難体制を整える。
  - イ 施設やグループホームの非常用物品について再確認し必要に応じた整備を行う。
  - ウ 施設職員や世話人への応急処置に関する研修を行う。

# 6 広報

(1) 広報紙「阿闍羅」(相馬良子)

ア内容

- (ア) 第17号 令和元年12月 発行
  - 1面 理事長、両施設長挨拶
  - 2面 ワークまつり、行事(キャンプ、親子バーベキュー)
  - 3面 津軽地区農福連携マルシェ、入職員あいさつ、今後の行事日
  - 4面 法人決算書、障害に関する相談窓口、編集後記
- (イ) 第18号

発行できませんでした。

イ 次年度への課題

今年度は一度の発行でしたが、しいたけ調整加工作業所の建設やワークまつり、 農福連携マルシェなど内容の充実したものができた。来年度は例年どおり年二回の発行を 目指して、利用者の生き生きとした様子やしいたけ販売の状況などを記事にしていきたい。

(2) ホームページ (田中大生)

ア 内容

(ア) 更新

- ア 法人理念 職員行動目標
- イ ダウンロード ワークショップ大鰐施設パンフレット
- ウ 研修会等のご案内 公開研修のお知らせ
- 工 情報公開 役員名簿、事業計画書
- 才 法人概要 運営施設、職員数、設立年月日、沿革
- カ 利用状況 ワークキャンパス大鰐、ワークショップ大鰐、グループホーム

(イ) 追加

- ア 障害に関する相談窓口のページ
- イ トップページに青森県認証のマーク
- ウ お知らせのページに青森県から認証を頂いた件について報告と理事長あいさつ
- イ 次年度への課題

令和元年度は幾つかの項目について更新と追加ができた。しかし、全体的には更新が遅く、ホームページとしての役割に不足を感じている。また、全く更新されていない情報部分も多

くあり、タイムリーに更新するためにも、以前より課題としてあげられている更新できる人材の育成が必要である。次年度は基本操作となるブログと利用状況の更新方法を、ワークキャンパス大鰐とワークショップ大鰐の職員それぞれに1人ずつ、研修の実施とその後の定期的な更新ができるよう指導する。

#### (3) 福祉サービス広報 (中平恵美)

ア 法人のわかりやすい版ちらし作成

予定されていた期日まで作成はできなかったが、令和2年4月に完成した。

イ 公共施設への配置

令和2年4月中に大鰐町役場、大鰐町中央公民館、大鰐町総合福祉センターに設置した。

#### (4) その他の広報(金枝友和、山川裕紀子)

ア 大鰐町文化協会総会等に出席

6月 4日 (火): 文化協会総会 大鰐町中央公民館 8月 9日 (金): 文化協会理事会 大鰐町中央公民館 10月 4日 (金): 文化協会理事会 大鰐町中央公民館

11月27日(水):文化協会反省会 大鰐町中央公民館

#### イ 大鰐町民文化祭への参加

令和元年11月1日(金)~3日(日)に大鰐町中央公民館で開催された大鰐町民文化祭に作品を出品した。

#### ウ 地域のまつり等へ参加

共同受注窓口を中心に、施設紹介を含め、生産物の紹介及び展示即売をしながら参加した。

#### 「参加状況」

- ・大鰐温泉つつじまつり
- ・近隣施設のまつり
- ・農福連携マルシェ

- ・鰐 come 祭り
- ・まるごと大鰐商人市
- ・もったいない広場&ふくしマルシェ

# 7 会議

#### (1) 連絡調整会議(田中大生)

実施月	開催日	会議内容	構成員
4月	4月 5日(金)	(ア) 各施設間の情報共有	施設長
5月	5月16日 (木)	(イ) 事業の方針の検討	課長
6月	6月11日 (火)	(ウ) 事業の進捗状況確認	主 任
7月	7月11日(木)	(エ) 行事等確認と日程調整	計8名
8月	8月19日 (月)	(オ) 福祉サービス自己評価	
9月	9月12日 (木)	(カ) 福祉施策等通知の共有	

10月	10月10日(木)	(キ) 規程や様式、マニュアル等の新
11月	11月14日(木)	規作成および改善
12月	12月12日(木)	(ク) 新規採用者育成計画並びに人材
1月	1月16日(木)	育成計画の検討・作成・検証
臨時	2月 4日 (火)	(ケ) その他協議調整が必要な事項
2月	2月13日(木)	
3月	3月12日(木)	

# (2) 事業会議(山中司)

実施月	開催日	会議内容	構成員
4月	4月18日 (木)	(ア) 次月の各業務予定報告	理事長
5月	5月23日(木)	(イ)収支報告	法人職員
6月	6月20日(木)	(ウ) 行事計画の立案検討	(非常勤
7月	7月18日(木)	(エ)送迎に関すること	を除く)
8月	8月22日(木)	(オ) GHに関すること	31 a o fa
ワークま つり会議	9月 2日 (月)	(カ)安全巡視の報告 (キ)連絡調整会議での調整事項につ いて報告および提案	計19名
9月	9月19日(木)	(ク)新規採用者育成計画並びに人材	
10月	10月17日(木)	育成計画公表・説明	
11月	11月21日(木)	(ケ)共同受注窓口の納品配達、新規	
しいたけ 会議	11月26日(月)	開拓、出店等に関する予定・報告・ 検討	
12月	12月19日(木)	(コ) その他	
1月	1月23日(木)		
2月	2月20日(木)		
3月	3月24日(火)		

# (3) 給食会議;事業会議と同時開催(山口美香)

実施月	開催日	会議内容	構成員
4月	4月18日(木)	(ア) 給食業務、内容の協議	理事長
5月	5月23日(木)	(イ)嗜好調査の検討	法人職員
6月	6月20日(木)	(ウ)調理、味付けの工夫等の検討	(非常勤
7月	7月18日(木)	(エ)利用者の食に関係する健康管理	を除く)
8月	8月22日(木)	(給食指導)等の検討・協議・ 報告	計19名
9月	9月19日(木)	TIA H	р т о д

10月	10月17日(木)
11月	11月21日(木)
12月	12月19日(木)
1月	1月23日(木)
2月	2月20日(木)
3月	3月24日 (火)

# (4) ケース会議(中嶋綾子)

実施回	開催日	会議内容	構成員
第1回	4月24日(水)	(ア) 職員の資質向上に関すること	ワークシ
第2回	5月 9日 (木)	· 研修報告 · 職員研修	ョップ大
第3回	6月 6日 (木)	・ヒヤリハット事例検討	鰐 職 員
第4回	7月 4日(木)	(イ) 利用者の個別支援に関すること	(支援計
第5回	8月 8日 (木)	・支援計画書、モニタリング記録表	画書作成
第6回	9月 5日 (木)	・ケースカンファレンス	の会議は
第7回	10月 9日(水)	• 家庭訪問記録、通院報告	非常勤含
第8回	11月12日(火)	• 作業能力評価	む)
第9回	12月 5日(木)	• 三者面談內容報告	
第10回	1月10日(金)	(ウ) 行事・作業に関すること	計12名
第11回	2月 6日(木)	・行事計画	(内非常勤3名)
第12回	3月 5日 (木)	• 作業予定	
第13回	3月26日(木)		

# (5) グループホーム関係者会議(田中大生)

実施回	開催日	会議内容	構成員
第1回	5月23日 (木)	(ア)業務内容全般の確認	施設長サビ管
fato		(イ)利用者支援方法伝達と支援後確   認	課長
第2回	7月18日(木)	(ウ) 利用状況確認 (エ) 法人の方針や必要な通知等の周	主任
第3回	9月19日 (木)	知	世話人
		(オ) 規程、様式、マニュアル等の周 知	宿直員
第4回	11月21日 (木)	(カ) 食事等の管理と栄養等指導	計23名
		(キ)世話人、宿直員、生活支援員、	
第5回	1月23日(木)	サビ管、管理者、栄養士等の顔 合わせ	

第6回	3月24日(火)	<ul><li>(ク) ミニ研修並びにグループワーク</li><li>(ケ) その他</li></ul>	
1			

# **8 人材育成計画(研修計画)**(田中大生)

# (1) 評価·面談

# ア評価

職員育成・評価基準の「キャリアパス要件」に基づき、「職員育成・評価基準シート」を使用して行った。(再雇用および非常勤を除く)

# イ 面談 (ワークショップ大鰐分)

# (ア) 目標設定の助言

令和元年5月~8月

被面談者 7名

面談者(白石安英、田中大生)

# (イ) 目標達成の評価

令和2年3月~4月

被面談者 7名

面談者(秋元広光、佐藤直幸、白石安英、田中大生)

※ 詳細は、別冊 [別表 (1)] 参照

#### (2) 求められる能力

各職域とキャリア階層ごとに「人材育成年間スケジュール」を下記のとおり作成、周知した。

- ・作成 平成31年 4月 5日 連絡調整会議
- ·周知 平成31年 4月18日 事業会議

作成内容	対象者	期間
一般職 初級	0名	
一般職 中級	10名	
一般職 上級	2名	
経理・事務員 初級	0名	T-4-0-1-E-4-B-1-B-
経理・事務員 中級	1名	平成31年4月1日~ 令和2年3月31日
経理・事務員 上級	2名	742年3月31日
調理員 乙	1名	
指導職 乙	2名	
指導職 甲	1名	

#### (3) 研修参加(実施)等状況

	保例	<b>建大学</b> 宝	<b>主催研修】</b>		
実施日		l	研修名	場所	参加者
5月10日			障害児·者福祉施設新任職員研修	青森県立保健大学	笹田和夫
6月13日	~	6月14日	職場研修担当者研修	ウエディングプラザアラスカ	田中大生、植田善久
6月25日			社会福祉法人指導監査対策セミナー	リンクモア平安閣市民ホール	三上拓雄
6月28日			社会福祉施設職員経理研修	青森県立保健大学	三上拓雄、相馬良子、田中大生
7月11日	~	7月12日	栄養、食育マネジメントセミナー	青森県立保健大学	山口美香
7月11日	~	7月12日	キャリアパス対応生涯研修 初任者コース	県民福祉プラザ	金枝友和
8月5日			青森県知的障害者福祉部会 地域支援部会·日中活動支援 部会 令和元年度職員合同研修会	県民福祉プラザ	中平恵美、中畑幸
8月31日	~	9月1日	社会福祉士実習指導者講習会	青森県立保健大学	田中大生
9月17日			社会福祉施設看護職員研修	青森県立保健大学	木田繁子
10月17日	~	10月18日	キャリアパス対応生涯研修 中堅職員コース	県民福祉プラザ	鎌田健司、竹内友紀
10月24日	~	10月25日	キャリアパス対応生涯研修 中堅職員コース	県民福祉プラザ	山中司、中畑幸
11月13日	~	11月14日	キャリアパス対応生涯害研修 チームリーダーコース	県民福祉プラザ	中嶋綾子、中平恵美
12月18日	~	12月19日	キャリアパス対応生涯研修 管理職員コース	県民福祉プラザ	笹田和夫
1月21日			離職防止環境整備研修	ウエディングプラザアラスカ	白石安英
2月14日			メンタルヘルス研修	ウエディングプラザアラスカ	笹田和夫
3月2日			働きやすい福祉の職場づくりに関する 制度・事業等説明会	県民福祉プラザ	三上拓雄、田中大生、笹田和夫 中止
【知的障律	者	福祉協会	· 主催研修】		
実	施日	I	研修名	場所	参加者
4月25日	~	4月26日	青森県知的障害児者生活サポート協会総会・部長協議会	八戸プラザホテル	佐藤直幸
	_				
7月22日	~	7月23日	全国知的障害関係施設長等会議	東京国際フォーラム	佐藤直幸、白石安英
7月22日 8月5日	~	7月23日	全国知的障害関係施設長等会議 青森県知的障害者福祉協会地域支援部 会·日中支援部会 職員合同研修会	東京国際フォーラム 県民福祉プラザ	佐藤直幸、白石安英 中平恵美
			青森県知的障害者福祉協会地域支援部 会·日中支援部会 職員合同研修会		
8月5日	~		青森県知的障害者福祉協会地域支援部 会·日中支援部会 職員合同研修会	県民福祉プラザ	中平恵美
8月5日 <del>9月5日</del>	~	<del>9月6日</del> 10月4日	青森県知的障害者福祉協会地域支援部 会·日中支援部会 職員合同研修会 生 <del>産活動·就労支援部会 全国大会</del> 青森県知的障害者福祉協会職員·利用 者研修会	県民福祉プラザ TKPガーデンシティ仙台	中平恵美 不参加 笹田和夫、中平恵美、竹内友紀
8月5日 <del>9月5日</del> 10月3日 【 <b>青森県・</b>	~	9月6日 10月4日 <b>订村 主</b> 何	青森県知的障害者福祉協会地域支援部 会·日中支援部会 職員合同研修会 生 <del>産活動·就労支援部会 全国大会</del> 青森県知的障害者福祉協会職員·利用 者研修会	県民福祉プラザ TKPガーデンシティ仙台	中平恵美 不参加 笹田和夫、中平恵美、竹内友紀
8月5日 <del>9月5日</del> 10月3日 【 <b>青森県・</b>	~ ~ 市	9月6日 10月4日 <b>订村 主</b> 何	青森県知的障害者福祉協会地域支援部 会·日中支援部会 職員合同研修会 生產活動·就労支援部会 全国大会 青森県知的障害者福祉協会職員·利用 者研修会 董】	県民福祉プラザ  TKPガーデンシティ仙台 ホテル青森	中平恵美 不参加 笹田和夫、中平恵美、竹内友紀 佐々木孝雄、山中司、山内雄太
8月5日 <del>9月5日</del> 10月3日 【青森県・	~ ~ 市	9月6日 10月4日 <b>订村 主</b> 何	青森県知的障害者福祉協会地域支援部会·日中支援部会 職員合同研修会 生産活動·就労支援部会 全国大会 青森県知的障害者福祉協会職員·利用 者研修会	県民福祉プラザ TKPガーデンシティ仙台 ホテル青森 場所	中平恵美 不参加 笹田和夫、中平恵美、竹内友紀 佐々木孝雄、山中司、山内雄太
8月5日 <del>9月5日</del> 10月3日 【青森県・ 実	~ ~ 市	9月6日 10月4日 <b>订村 主</b> 何	青森県知的障害者福祉協会地域支援部会·日中支援部会 職員合同研修会 生産活動·就労支援部会 全国大会 青森県知的障害者福祉協会職員·利用 者研修会	県民福祉プラザ TKPガーデンシティ仙台 ホテル青森 場所 大鰐町中央公民館	中平恵美 不参加 笹田和夫、中平恵美、竹内友紀 佐々木孝雄、山中司、山内雄太 参加者 相馬良子、幸山雅子
8月5日 <del>9月5日</del> 10月3日 【 <b>青森県・</b> 実 7月10日	一一市施田	9月6日 10月4日 <b>订村 主</b> 係	青森県知的障害者福祉協会地域支援部会・日中支援部会 職員合同研修会 生産活動・就労支援部会 全国大会 青森県知的障害者福祉協会職員・利用 者研修会	県民福祉プラザ TKPガーデンシティ仙台 ホテル青森 場所 大鰐町中央公民館 アピオあおもり	中平恵美 不参加 笹田和夫、中平恵美、竹内友紀 佐々木孝雄、山中司、山内雄太 参加者 相馬良子、幸山雅子 笹田和夫 中平恵美、竹内友紀、中嶋綾子、山中
8月5日 <del>9月5日</del> 10月3日 【 <b>青森県・</b> <b>実</b> 7月10日 8月2日 12月22日	一一市施田	9月6日 10月4日 <b>订村 主仰</b> 1	青森県知的障害者福祉協会地域支援部会・日中支援部会 職員合同研修会 生産活動・就労支援部会 全国大会 青森県知的障害者福祉協会職員・利用 者研修会	県民福祉プラザ TKPガーデンシティ仙台 ホテル青森 場所 大鰐町中央公民館 アピオあおもり	中平恵美 不参加 笹田和夫、中平恵美、竹内友紀 佐々木孝雄、山中司、山内雄太 参加者 相馬良子、幸山雅子 笹田和夫 中平恵美、竹内友紀、中嶋綾子、山中
8月5日 <del>9月5日</del> 10月3日 【 <b>青森県・</b> <b>実</b> 7月10日 8月2日 12月22日	~ 市施目	9月6日 10月4日 <b>订村 主仰</b> 1	青森県知的障害者福祉協会地域支援部会・日中支援部会 職員合同研修会 生産活動・就労支援部会 全国大会 青森県知的障害者福祉協会職員・利用 者研修会 数	県民福祉プラザ TKPガーデンシティ仙台 ホテル青森 場所 大鰐町中央公民館 アピオあおもり アスパム	中平恵美 不参加 笹田和夫、中平恵美、竹内友紀 佐々木孝雄、山中司、山内雄太 参加者 相馬良子、幸山雅子 笹田和夫 中平恵美、竹内友紀、中嶋綾子、山中司
8月5日 <del>9月5日</del> 10月3日 【青森県・ 実 7月10日 8月2日 12月22日	~ 市施目	9月6日 10月4日 <b>订村 主仰</b> 1	青森県知的障害者福祉協会地域支援部会・日中支援部会 職員合同研修会 生産活動・就券支援部会 全国大会 青森県知的障害者福祉協会職員・利用 者研修会 量】      研修名  成年後見制度講演会(町役場保健福祉 課主催) 青森県保育・障害福祉サービス事業所等認 証評価制度説明会 専門セミナー サビ管 更新研修	県民福祉プラザ TKPガーデンシティ仙台 ホテル青森 場所 大鰐町中央公民館 アピオあおもり アスパム	中平恵美 不参加 笹田和夫、中平恵美、竹内友紀 佐々木孝雄、山中司、山内雄太 参加者 相馬良子、幸山雅子 笹田和夫 中平恵美、竹内友紀、中嶋綾子、山中司
8月5日 <del>9月5日</del> 10月3日 【 <b>青森県・</b> 7月10日 8月2日 12月22日 【 <b>阿闍羅会</b> <b>実</b>	~ 市施目	9月6日 10月4日 <b>订村 主仰</b> 1	青森県知的障害者福祉協会地域支援部会・日中支援部会 職員合同研修会 生産活動・就労支援部会 全国大会 青森県知的障害者福祉協会職員・利用 者研修会 が修名 成年後見制度講演会(町役場保健福祉 課主催) 青森県保育・障害福祉サービス事業所等認 証評価制度説明会 専門セミナー サビ管 更新研修 】 研修名 職員スキルアップ研修 第1回	県民福祉プラザ TKPガーデンシティ仙台 ホテル青森 場所 大鰐町中央公民館 アピオあおもり アスパム 場所 ワークショップ大鰐	中平惠美 不参加 笹田和夫、中平惠美、竹内友紀 佐々木孝雄、山中司、山内雄太 参加者 相馬良子、幸山雅子 笹田和夫 中平惠美、竹内友紀、中嶋綾子、山中司
8月5日 9月5日 10月3日 【青森県・ 実 7月10日 8月2日 12月22日 【阿闍羅会 実 4月25日 4月26日	~ 市施目	9月6日 10月4日 <b>订村 主仰</b> 1	青森県知的障害者福祉協会地域支援部会・日中支援部会 職員合同研修会 生産活動・就労支援部会 全国大会 青森県知的障害者福祉協会職員・利用 者研修会  が修名 成年後見制度講演会(町役場保健福祉課主催) 青森県保育・障害福祉サービス事業所等認証評価制度説明会 専門セミナー サビ管 更新研修  が修名 職員スキルアップ研修 第1回 グループホーム関係職員対象研修	県民福祉プラザ TKPガーデンシティ仙台 ホテル青森 場所 大鰐町中央公民館 アピオあおもり アスパム 場所 ワークショップ大鰐 ワークショップ大鰐	中平恵美 不参加 笹田和夫、中平恵美、竹内友紀 佐々木孝雄、山中司、山内雄太 参加者 相馬良子、幸山雅子 笹田和夫 中平恵美、竹内友紀、中嶋綾子、山中司
8月5日 <del>9月5日</del> 10月3日 【 <b>青森県</b> • 7月10日 8月2日 12月22日 【 <b>阿闍羅会</b> 4月25日 4月26日 5月30日	~ 市施目	9月6日 10月4日 <b>订村 主仰</b> 1	青森県知的障害者福祉協会地域支援部会・日中支援部会 職員合同研修会 生産活動・就労支援部会 全国大会 青森県知的障害者福祉協会職員・利用 者研修会 量】	県民福祉プラザ TKPガーデンシティ仙台 ホテル青森 場所 大鰐町中央公民館 アピオあおもり アスバム 場所 ワークショップ大鰐 ワークショップ大鰐	中平惠美 不参加 笹田和夫、中平惠美、竹內友紀 佐々木孝雄、山中司、山內雄太 参加者 相馬良子、幸山雅子 笹田和夫 中平惠美、竹內友紀、中鳴綾子、山中司 参加者 14名 11名

7月25日		第3回 内部研修	ワークショップ大鰐	13名
8月29日		第4回 内部研修	ワークショップ大鰐	21名
9月26日		第5回 内部研修	ワークショップ大鰐	21名
10月31日		第6回 内部研修	ワークショップ大鰐	21名
11月28日		職員スキルアップ研修 第2回	鰾come	45名
12月24日		第7回 内部研修	ワークショップ大鰐	16名
1月11日		虐待防止研修	ワークショップ大鰐	26名
1月30日		職員スキルアップ研修 第3回	ワークショップ大鰐	16名
2月27日		第8回 内部研修	ワークショップ大鰐	16名
【その他研	修】			
実力	施日	研修名	場所	参加者
4月10日		春の業務用 食品展示会	青森産業会館	山口美香
4月17日		社会福祉法人のための決算実務セミナー	県民福祉プラザ	相馬良子
5月21日		安全運転管理者講習	大鰐町総合福祉センター	田中大生
5月23日		菌床椎茸栽培見学研修会	さくらの杜	中平恵美、中畑幸
6月11日		パワーポイント講習	リコージャパン弘前事業所	相馬良子
6月21日		安全衛生大会	ホテルクラウンパレス	三上拓雄、金枝友和
7月4日		サンマッシュ夏期セミナー	鰐come	山中司、山内彩子
7月10日		成年後見講演会	大鰐町中央公民館	相馬良子
9月17日		社会福祉施設看護職員研修	県立保健大学	木田繁子
9月26日		リスクマネジメントセミナー	弘前市民会館	田中大生
10月20日		弘前地区手をつなぐ育成会 創立60周年 記念講演会	さくら野	白石安英、保護者2名
11月24日		弘前福祉教育懇談会	弘前市身体障害者体育館	白石安英
11月30日	~ 12月1日	しいたけ栽培視察研修	岩手県 上北市 釜石市 (株)オーテック	相馬良子、笹田和夫、中畑幸、金枝友和、山内彩子、山川裕紀子
12月18日		さくらジョブネット講演会	弘前文化センター	佐藤直幸、白石安英
2月4日		障がい者雇用促進セミナー	<b>ב</b> חם	田中大生、鎌田健司
		•	•	•

F. (1) A . A . 20 . C. 3			
【総会·会議 等】			
実施日	会議名	場所	出席者
4月4日	鰐come産直の会 総会	鰐come	佐藤直幸、白石安英、田中大生
4月17日	中小企業家同友会(津軽支部) 総会	アラスカ	田中大生
4月21日	弘前市手をつなぐ育成会 総会	弘前市社会福祉センター	佐藤直幸、白石安英
4月23日	つつじまつり 出店説明会	大鰐町中央公民館	山川裕紀子
4月25日 ~ 4月26日	青森県知的障害者福祉協会 総会	八戸プラザホテル	佐藤直幸、白石安英
4月25日	大鰐温泉観光協会 総会	大鰐町中央公民館	田中大生
4月25日	安全運転管理者協会 役員会	黒石警察薯	田中大生
4月26日	大鰐町農業再生協議会 幹事会	大鰐町役場	不参加
5月8日	まるごと大鰐商人の会 会議	日景食堂	田中大生
5月13日	大鰐町農業再生協議会 通常総会	大鰐町役場	田中大生
5月20日	弘前自閉症児者親の会 総会	弘前市社会福祉センター	佐藤直幸、白石安英
5月24日	さくらジョブネット 総会	フォルトーナ	鎌田健司、山川裕紀子
5月28日	中小企業家同友会 津軽支部例会	ユイット デュポワ	田中大生
5月29日	安全運転管理者協会 総会	不二やホテル	田中大生
6月4日	大鰐町文化協会 総会	大鰐町中央公民館	金枝友和、田中大生、山川裕紀子
6月11日	青森県社会就労センター協議会 総会	アピオあおもり	不参加
6月18日	つつじまつり 反省会	大鰐町中央公民館	山川裕紀子
6月24日	大鰐町社会福祉協議会 評議員会	大鰐町総合福祉センター	白石安英
6月25日	大鰐町地域自立支援協議会	大鰐町役場	田中大生
6月26日	ひろネットオンブズマン委員会 総会	ヒロロ 3階 多世代交流室2	佐藤直幸、白石安英

7月3日	鰐come業者協力会「鰐の会」 役員会	鰐come	田中大生
7月8日	まるごと大鰐商人の会 会議	日景食堂	田中大生
7月9日	安全運転管理者協会 役員会	黒石警察薯	田中大生
7月18日	大鰐町子ども子育て会議	大鰐町役場	田中大生
7月23日	鰐come業者協力会「鰐の会」 総会	鰐come	田中大生、笹田和夫
7月31日	さくらジョブネット 福祉施設合同説明会	ヒロロ	佐藤直幸、鎌田健司
8月9日	大鰐町文化協会 理事会	大鰐町中央公民館	田中大生、金枝友和、山川裕紀子
9月1日	大鰐ホームまつり	大鰐ホーム	笹田和夫
9月6日	中小企業家同友会 津軽支部例会	鰐come	白石安英、田中大生、笹田和夫
9月18日	第2回工賃アップ協議会	弘前市社会福祉センター	笹田和夫
9月16日	まるごと大鰐商人の会 会議	日景食堂	不参加
10月5日	大鰐町文化協会 理事会	大鰐町中央公民館	田中大生、金枝友和、山川裕紀子
10月11日	まるごと大鰐商人の会 総会	鰐come	笹田和夫、田中大生
11月13日	第3回中南障害者工賃アップ協議会	弘前市社会福祉センター	笹田和夫
11月14日	年末調整説明会	弘前文化センター	相馬良子
11月18日	大鰐町子ども子育て会議	大鰐町役場	田中大生
11月22日	大鰐町社会福祉大会	大鰐町総合福祉センター	笹田和夫
11月22日	中小企業家同友会 津軽支部例会	大鰐町中央公民館	笹田和夫、白石安英
11月27日	大鰐町文化協会 理事会	大鰐町中央公民館	山川裕紀子
12月3日	地区社協福祉大会(表彰)	板柳町多目的ホールあぷる	田中大生
1月9日	福祉避難所開設図上訓練	弘前市消防事務組合 消防本部	植田善久、鎌田健司
1月9日	新年互例会	大鰐町中央公民館	秋元広光、白石安英、笹田和夫
1月24日	中南地域農福連携推進連絡会議	青森県産業技術センター	田中大生
1月29日	大鰐町子ども子育て会議	大鰐町役場	田中大生
2月5日	大鰐町農業再生協議会 幹事会	大鰐町役場	田中大生
2月14日	大鰐町農業再生協議会 臨時総会	大鰐町役場	田中大生
2月25日	弘前市松原小学校学校運営協議会	松原小学校	白石安英
3月5日	大鰐町子ども子育て会議	大鰐町役場	田中大生
3月6日	青森県立弘前第一養護学校卒業式	青森県立弘前第一養護学校	佐藤直幸
3月13日	青森県立黒石養護学校 卒業式	青森県立黒石養護学校	不参加
3月14日	弘前大学教育学部附属特別支援学校卒業式	弘前大学教育学部附属特别支援学校	佐藤直幸
3月17日	大鰐町社会福祉協議会 評議員会	大鰐町総合福祉センター	白石安英
3月19日	障害福祉サービス事業者集団指導	リンクモア平安閣市民ホール	佐藤直幸、白石安英、他6名 中止

# 9 苦情解決 (中嶋綾子)

- (1) 施設担当職員 苦情解決責任者 施設長 白石安英 苦情受付担当者 主 任 中嶋綾子
- (2) 第三者委員 ひろさき地域福祉ネットワーク・オンブズマン委員会(ひろネット) 訪問委員 工藤昌子、寺口美代子(2名)

# (3) 訪問記録

ア 訪問回数;合計12回 面談者数;延べ69名

訪問日 (施設担当者)	訪問委員名	面談状況と問題点
4月24日(山中妙)	工藤、寺口	6名と面談、特に問題なし
5月28日 (中 嶋)	工藤、寺口	5名と面談、特に問題なし
6月21日(鎌田)	工藤、寺口	6名と面談、特に問題なし
7月23日 (中 嶋)	工藤、寺口	5名と面談、特に問題なし
8月21日(山中美)	工藤、寺口	5名と面談、特に問題なし
9月24日 (田 中)	工藤、寺口	6名と面談、特に問題なし
10月30日(幸山)	工藤、寺口	6名と面談、特に問題なし

11月22日(幸山)	工藤、寺口	6名と面談、特に問題なし
1月 7日 (幸 山) (12月分実施)	工藤、寺口	6名と面談、特に問題なし
1月29日 (白 石)	工藤、寺口	6名と面談、特に問題なし (給食試食)
2月18日 (白 石)	工藤、寺口	6名と面談、特に問題なし
3月24日 (山中司)	工藤、寺口	6名と面談、特に問題なし

イ 施設訪問委員は、毎月1回の訪問日に利用者及び施設担当者と面談し、日常的な状況把握 と意見聴取を行った。苦情等の申し出はなかった。

# 10 地域生活支援(笹田和夫)

令和元年9月25日に開催された第3回理事会において、グループホーム事業の再編による実施が承認され、令和元年12月1日から以下のような方法で事業変更した。

# (1) 再編方法

- アグループホームすみれ荘とグループあやめを、グループホームさくらで一体管理で行う。
- イ グループホームすみれ荘の類型は「外部サービス利用型」から「介護サービス包括型」へ、 定員を6人から5人へ変更。
- ウグループホームすみれ荘の名称を、グループホームすみれへ変更。
- (2) グループホームさくら(介護サービス包括型)

居宅数3棟・・・さくら、すみれ、あやめ

ア グループホームさくら

(ア) 住居 定員6名 現員6名 (令和2年3月31日現在)

※ 生活介護2名 就労継続支援B型4名

#### (イ) 食事

メニューについては栄養面を配慮し、入居者の意見を聞きながら作っている。健康面に留意して、好き嫌いなく何でも食べられるよう工夫している。

(ウ) 地域との関わり

町内の行事であるねぷたまつりの見学をしている。

(エ) 次年度への課題

障害や生活能力が多様であり、個別の対応が必要である。利用者同士で助け合いなが ら生活できるよう支援をしていきたい。

イ グループホームすみれ

(ア) 住居 定員5名 現員5名(令和2年3月31日現在)

※ 就労継続支援B型5名

(イ) 食事

メニューについては栄養面を配慮し、入居者の意見を聞きながら作っている。健康面

に留意して、好き嫌いなく何でも食べられるよう工夫している。

(ウ) 地域との関わり

町内の行事であるねぷたまつりの見学をしている。

(エ) 次年度への課題

個性的な利用者が多い。生活ルールを守り安全に生活していくために支援していく。 ウ グループホームあやめ

(ア) 住居 定員7名 現員6名(令和2年3月31日現在)

※ 就労継続支援B型6名

(イ) 食事

メニューについては栄養面を配慮し、入居者の意見を聞きながら作っている。健康面 に留意して、好き嫌いなく何でも食べられるよう工夫している。

(ウ) 地域との関わり

町内の行事であるねぷたまつりの見学をしている。

(エ) 次年度への課題

比較的協力的に生活しているが、個別に生活ルールを守って生活するよう支援をしていく。

(3) グループホームこすもす(外部サービス利用型)

ア 住居 定員8名 現員8名(令和2年3月31日現在)

※ 就労継続支援B型7、一般就労1名

イ 食事

メニューについては栄養面を配慮し、入居者の意見を聞きながら作っている。健康面に留意して、好き嫌いなく何でも食べられるよう工夫している。

ウ 地域との関わり

町内の行事であるねぷたまつりの見学をしている。

エ 次年度への課題

比較的協力的に生活しているが、個別に生活ルールを守って生活するよう支援をしてい く。

#### 11 共同受注窓口

(1)「津軽地区障害者就労継続支援事業所共同受注窓口ふらわーずぶるーむ」(鎌田健司)

#### ア 実施概要

令和元年度は、催事への参加回数(平成30年度20回)、売上(平成30年度554,891円)ともに平成30年度を上回った。さくら野百貨店弘前店で開催した「農福連携マルシェ」も4年目、過去最高の集客数と売上になっている。

また、ワークショップ大鰐の職員だけでなく、ワークキャンパス大鰐の職員も催事に協力 することで、法人としての体制が確立している。

# イ 催事売上

月	売 上	月	売上
4月	3,090円	10月	37,550円
5月	234,660円	11月	94,610円
6月	38,630円	12月	11,430円
7月	36,760円	1月	8,960円
8月	12,400円	2月	8,580円
9月	196,090円	3月	0円
小計	521,630円	小計	161,130円
合 計	6	82,760	Ч

# ウ 参加催事

実施月日	催事名	出店担当
4月13日(土)	もったいない広場&福祉マルシェ	山川裕紀子
5月18日 (土)	つつじまつり	田中、山川
~22月(水)		鎌田
25日(土)	もったいない広場&福祉マルシェ	幸山稚子
6月 1日(土)	まるごと大鰐商人市	山川裕紀子
~ 2目(目)		鎌田健司
23日(日)	もったいない広場&福祉マルシェ	山中 司
7月 7日(日)	りんどう苑まつり	中嶋綾子
	月見野まつり	田中大生
13日(土)	もったいない広場&福祉マルシェ	鎌田健司
28日(日)	まるごと大鰐商人市	山川裕紀子
8月10日(土)	もったいない広場&福祉マルシェ	幸山稚子
2 1 日 (水)	ふれあい広場	山川裕紀子
9月 1日(日)	茜まつり	山中 司
15日(日)	もったいない広場&福祉マルシェ	鎌田健司
2 1 日 (土)	アップルハウスまつり	山内彩子
	更生保護女性大会	田中大生
28日(土)	ノウフクマルシェ	鎌田、山川
~29日(日)		田中
10月20日(日)	復興支援フェア in 鰐 come	中嶋綾子
11月 7日(木)	東北フォーラム秋田	鎌田健司
~8日(金)		

10日(日)	もったいない広場&福祉マルシェ	田中大生
15日(金)	青森県社会福祉大会	山川裕紀子
22日(金)	大鰐町社会福祉大会	田中大生
12月14日(土)	もったいない広場&福祉マルシェ	佐藤、笹田
1月11日(土)	もったいない広場&福祉マルシェ	田中大生
2月 8日 (土)	もったいない広場&福祉マルシェ	笹田和夫

※ 計24回 延べ31日間

(2) 中南地区障害者就労施設工賃向上支援協議会「中南障害者工賃アップ協議会」

(白石安英)

# ア 開催日及び会場、参加者数等

開催日	会 場	参加者数	備考
第1回 6月21日(金)	弘前市社会福祉センター	2 4 名	
第2回 9月18日(水)	II	26名	
第3回11月13日(水)	II	19名	
第4回 2月14日(金)	II	19名	

# イ 今年度の活動概要

- (ア)「ハグワーク」「りんごアセスメント」「農福連携の推進」「ノウフクマルシェ」「全国障がい福祉物産展」等の情報交換・情報提供をとおして、販路の拡大を図った。また、受託作業としてDMノバフォームのフルーツキャップ作業や施設外就労等についても情報交換・情報提供を行った。
- (イ) B型事業所生産品の情報確認(更新)を行い、その活用と橋渡しについて確認し、各市 町村商工会議所との連携を図ることで販路・収益の拡大に繋げるための準備を進めた。
- (ウ) アンケート調査及び今後の活動の方向性について、弘前学院大学社会福祉学部 小川幸 裕教授と弘前大学大学院教育学研究科 菊地一文教授から助言をいただくとともに継続・連携して支援いただけるよう確認した。

### ウ 次年度への課題

- (ア)会則・会費については検討を継続し、この協議会が三障害全体で連携して取り組めるようにする。できれば、会費は徴収せず、さくらジョブネットの事業の一つとして位置付け、工賃向上と販路拡大及び農福連携等の充実向けて取り組みを継続する。
- (イ) 3年目に向けての体制作りとして「つがる地区障害者就労支援連絡会(さくらジョブネット)」の中に活動の中心を位置付ける方向で提案したが、協議会の参加事業所の全てがさくらジョブネットの会員にはなっておらず、合意形成のため継続した協議が必要である。また、さくらジョブネットとも継続して連携が必要である。
- (ウ)アンケート調査については、各市町村商工会議所の全会員を対象にした場合、対象数が 全体で3,000ヵ所を越えるため、障害者法定雇用率の対象となっている事業所に絞

り込んで実施したいと考えている。この際、各商工会議所の総会等で障害者の雇用や賃 金(工賃)の実態について伝えることを検討したい。また、各施設・事業所の生産品の 紹介も行い、販路の拡大も図る。

# 12 虐待防止委員会(白石安英)

(1) 実施日時 令和2年1月29日(水) 9:30~10:30

#### (2) 参加者

役職名	氏 名	所 属 等
委員長	秋元 広光	理事長
副委員長	佐藤 眞一	業務執行状況監査役
	工藤 美生	(虹の会会長)
	寺口美代子	第三者委員訪問委員 (オンブズマン)
委 員	工藤 昌子	第三者委員訪問委員 (オンブズマン)
	佐藤 直幸	ワークキャンパス大鰐施設長
	白石 安英	ワークショップ大鰐施設長

※ 浅利金利(椎の実会会長)委員、清藤紀子(オンブズマン)委員は、都合により欠席

#### (3) 実施内容

ア 平成31年度(令和元年度)の虐待に対する取り組み等を報告、検討した。

- イ 令和2年1月28日に実施された認証評価のための現地調査で、虐待防止に関する研修を 実施した際、参加できなかった職員に研修資料を渡すだけではなく別日に研修を行うよう 指摘されたことについては、次年度の実施に向け改善する方向で検討中である旨報告した。
- ウ グループホーム利用者から苦情がないかとの質問があった点については、集団生活をしていることから利用者間の不和や軋轢がないわけではないが、相性もあるためそれに合わせた支援をしていること、職員間の申し送りは、世話人業務日誌を活用し世話人とバックアップ施設および居宅担当職員等が情報共有できるようにしていることを報告した。また、宿直員が配置されているグループホームにおいては世話人と宿直員が交代する際にも情報共有されている点も報告した。
- エ 「保護者から職員へ、話しやすい(伝えやすい)環境になっているか」という質問については、年2回の三者面談の実施に加え、保護者参加の行事や職員との交流の際に、意見等を吸い上げる機会としているが、保護者が施設に対しより相談しやすい環境作りに向けて取り組むことを確認している。
- オ オンブズマンによる面談について、利用者本人だけでなく保護者との面談についても施設 来所日を周知するなどして機会を設けることを検討する。
- カ 次年度の予定は、令和元年度と同時期(1月27日(水)の午前中を予定)とする。

#### (4)年間活動

ア 早期発見チェックリストの全職員への配付

配付月: 令和元年7月、10月、令和2年1月 計3回

イ 虐待防止チェックリストの全職員への実施

回収月: 令和2年4月

# 13 安全巡視(佐藤直幸)

#### (1) 安全巡視実施日

実施年月日	担当者
令和 1年 7月22日	田中大生 ・ 中平恵美
令和 1年 9月12日	金枝友和 ・ 山中 司
令和 2年 1月22日	中畑 幸 ・ 山内彩子
令和 2年 5月 7日	三上拓雄 · 笹田和夫

#### (2) 実施内容

3ヶ月に1回、キャンパス・ショップより各1名ずつ選出し実施。

法人内事業所全部を訪問、注意箇所を点検し事業会議で報告し検討した。

#### (3) 次年度への課題

前年度から比べると環境維持が課題となっているように見受けられた。そのほか、経年劣化による建物の破損箇所も多くなっており、各事業所で修繕が必要になってきている。

また、令和元年度計画の4回目(令和2年3月~4月実施)の安全巡視が、計画どおり実施されなかったため、令和2年度は計画通り実施をしていきたい。

#### 14 地域交流(笹田和夫)

# (1) 地域との交流

#### ア 大鰐町民生児童委員協議会

今年度9月19日(木)、大鰐町民生児童委員31名の訪問を受け、同協議会とは初めて 交流する機会に恵まれた。内容はワークショップ大鰐・ワークショップ大鰐の施設および作 業の見学と障害に関する概要説明及び質疑応答を行った。法人側からは、「在宅にいる障害 者に関わる課題が生じた場合は、是非相談をして欲しい。」と、地域相談窓口があることを 伝えている。

#### イ 大鰐町社会福祉協議会

評議員会への出席・ふれあい広場への参加協力・社会福祉大会への出席出店をした。

# ウ 町内加盟地域団体

大鰐温泉つつじまつりへの出店協力、おおわに文化祭美術展への参加協力、まるごと大鰐商人市への出店協力、鰐 come イベントへの協力、鰐 come 産直の会および鰐 come 業者協力会への商品納入と協力、中小企業家同友会津軽支部例会等への出席をした。

#### 工 大鰐町

大鰐町地域自立支援協議会、第2期大鰐町子ども・子育て支援事業計画策定のための会議、

大鰐町農業再生協議会へ委員として出席した。

#### (2) 学生やボランティア等の受け入れ

ア 大鰐中学校福祉体験学習(1年生徒)

今年度は10月17日(木)~18日(金)の2日間、ワークキャンパス大鰐には6名、ワークショップ大鰐には4名の生徒が体験をした。作業の他に、「利用者・職員へのインタビュー」を行うなど、直接ふれあう機会を設けた。

イ 特別支援学校からの現場実習生

以下の実習生を受け入れた。

(ア) ワークキャンパス大鰐

県立弘前第一養護学校高等部 3年 男子 1週間

1年 男子 2週間

弘前大学附属特別支援学校高等部 3年 男子 2週間

(イ) ワークショップ大鰐

県立弘前第一養護学校高等部 3年 男子 1週間

リニュニュ 1年 女子 2週間

#### ウ 教員免許取得者の介護等体験

8月26日(月)~30日(金)の5日間、弘前大学教育学部1年学生の教員免許取得者に対する介護等体験実習をワークショップ大鰐で担当した。リサイクルやしいたけの作業の他、昼食時間などにおいて、できるだけ利用者とふれあう機会を多く設けた。

#### (3)情報の収集と公開

ア 利用者・保護者・地位住民に対して、HP上で情報を公開している。今後も可能な限り、 情報量を増やしていきたいと考えている。

イ 福祉サービス広報の一つとして、誰にでもわかりやすい内容のパンフレットを作成した。 大鰐町役場障害福祉課、大鰐町総合福祉センター、大鰐町中央公民館に設置した。

#### (4) 次年度への課題

ア 今年度初めて交流することができた民生児童委員連絡協議会とは、今後も交流機会を設け て連携を図っていきたい。

- イ 大鰐中学校生は、1年生における福祉体験ということであるが、生徒がとても自然に利用者に接していた。共生社会の実現のためにもとても有効な機会であり、今後も協力していきたい。
- ウ 令和2年度から特別支援学校実習生のうち、2名が本法人を利用することになった。今後 もキャンパス・ショップの良さをPRして、利用者拡大を図っていきたい。
- エ コロナウィルス感染拡大の影響を受け、事業実施に制約がでている。関係機関と連絡調整を図りながら進めていきたい。

(別冊)